



弓矢的当て体験では子どもも大人も和やかに挑戦

まえさわ 中世の衣装まとい魅力発信 白鳥館遺跡・鮎まつり

白鳥館遺跡・鮎まつり（同実行委員会主催）が10月18日、前沢区の白鳥館遺跡と白鳥地区防災センターで開催されました。白鳥館遺跡の世界遺産への追加登録に向け、地元が盛り上げ後押ししようといわれているこの祭り。地域住民らが歴史衣装をまとい、アユの塩焼き販売やちびっこ弓矢的当て体験などのイベントで中世の風景を再現しました。

青木幸保平泉町長が会場に駆け付け、世界遺産への追加登録に向け激励する一幕もありました。



衣川川内神楽「牛若丸宝蔵破り」より、宝蔵を破ろうとする牛若丸

いさわ 市内郷土芸能 10 団体が共演 市民芸術文化祭「郷土芸能の祭典」

市と市芸術文化協会が主催する第10回市民芸術文化祭「郷土芸能の祭典」が10月4日、胆沢文化創造センターで行われました。古くは元禄13年（315年前）から伝承されている伊藤流行山鹿踊保存会など、剣舞や鹿踊り、神楽などの伝統芸能を継承する市内10団体が演舞を披露しました。

演舞の合間に演者が紹介されるなど、会場は和やかな雰囲気。しかし、ひとたび演舞が始まると、その熱の入った様子に、観客は時間を忘れ見入っていました。



穴を掘って、1本1本丁寧に植栽する参加者

まえさわ 力強く育てと願いを込めて 第8回奥州万年の森植樹祭

第8回奥州万年の森植樹祭が10月4日、前沢区字石田地内の奥州万年の森公園で開催されました。3年前から子どもたちが育て始めたクヌギ、トチノキ、コナラ、ミズナラの苗木など2,500本を参加した200人が植樹。100年、1,000年先の将来に掛け替えのない資源となるよう思いを込めました。

千田蒼冬くん（6）と親子で参加した克和さんは「小さいころから奉仕活動やボランティアを体験させたい」と子と苗木の成長を楽しみに話っていました。



隊員が育てた野菜を使った料理に舌鼓を打つ参加者

いさわ 秋空高くごはんが美味しい のんびり青空レストラン胆沢

市認知症支援ぬくもり隊（菊地正宏隊長）主催ののんびり青空レストランが10月27日、胆沢区の健康増進プラザ悠悠館で開催されました。

認知症の人や家族などと隊員を含めた総勢70人が、青空の下で芋の汁やさつまいもご飯のおにぎりなどを味わいました。唱歌の合唱なども行われ、参加者はイベントを満喫。歌の仲間6人で参加したという水沢区の千葉眞子さん（73）は「外で食べるのは格別。10年は長生きできそう」と満ち足りていました。

いさわ 奥州湖を彩る秋景色を求め いさわ路探訪「新☆観光ルート散策ツアー」



新ルートを走るツアーバス。後ろに見える岩山は猿岩

いさわ路探訪バスツアーが10月22日、いさわ散居ガイドの会（鈴木公男会長）の主催で開催されました。このツアーは「普段着の心で胆沢の魅力案内」をテーマに、胆沢区を中心に史跡などを探訪しているものです。

20回目となる今回は、奥州湖から一関市祭時のルートを「新☆観光ルート散策ツアー」と題し、9月26日に開通した本市の国道397号と一関市の国道342号を結ぶ市道を通り、「かね山」鉾山跡や骨寺村莊園遺跡を巡る旅程。参加者は、焼石岳や胆沢ダムに広がる美しい紅葉を目で楽しみ、遺跡が伝える歴史や文化を感じ取りました。水沢区の佐々木都美子さん（75）は「色付いた木々と山並みの美しさで心が洗われるよう。来て良かった」と喜びを語りました。

いさわ 健康づくりがんばっぺし！ いさわ健康フェスティバル

いさわ健康フェスティバルが10月17日、達者の里（健康増進プラザ悠悠館、高齢者総合福祉施設ぬくもりの家、まごころ病院など）で開催されました。

まごころ病院の小幡紘先生による健康講演会、認知症をテーマにした座談会、運動や食の体験コーナーなどを実施。来場者は、催しを通して達者の里の取り組みや健康づくりを学びました。会場には子どもが体験するコーナーもあり、南都田小5年の本城麻里菜さんは「初めて来たけれど楽しい」と満喫していました。



体力測定コーナーでは、握力や片足立ちの時間などを測定



およそ10年振りの披露となった天ノ岩戸開舞

えさし 次代につなぐ神楽の技と心 小田代神楽創始120周年

明治28年に創始され、ことし120周年を迎えた江刺区田原の小田代神楽。同神楽保存会（及川章会長）は25日、小田代コミュニティセンターで6代目相伝式と120周年記念式典を行いました。

昭和後期に一時衰退状態となったものの、平成15年に同区玉里の和田神楽の協力で6代目を立ち上げ、研さんを積みながら多くの舞台を踏んできた同神楽。式典後の式舞披露では、地域住民や関係者らにこれまでの感謝と次代への継承の決意を舞で表しました。